

24 ○停車…車をとどめる。 停軫。

『漢語大詞典』には「停下車子。使車停留」と説明し、杜牧の「山行詩」の「停車坐愛楓林晚、霜葉紅於二月花」の句を引く。

○右郭…太宰府政庁の西側にあたる街区。先の清藤鶴美氏の説明によれば、「(右郭)は当時の太宰府市街の右京というべき所。当時の太宰府は、今の都府楼址を中心の方四町にわたって正殿以下の諸司百寮が整然と布置し、町は南大門から真っ直ぐに北に向かって大路が走り、左右の両郭に区分される。東が左郭、西が右郭である。配所の南館はその右郭の十条にあたるものが知られ、今の榎社(榎寺とも)の地が大体その地であろう。さらに左右両郭は、南北に走る線によって各々十二坊に区分される、これが一条から二十二条までの東西の道路によって正方形に区分されたという」とある。

(『菅家の文華』太宰府天満宮編 222～223頁) ↓ 補説② 附図参照



補説①

○19句目の傳馬・駅制について

既に先学指摘があるように(柳澤良一氏『菅家後集』注釈稿(九))『令』巻第九「廐牧令第廿三」に次のような一文を載せる。

凡諸道置駅馬。大路廿疋。中路十疋。小路五疋。(中略)其伝馬每郡各五。(凡そ諸道に駅馬置かむことは、